

審査の結果の要旨

氏名 馬麗華

市場経済化の進展に伴い、中国の社会秩序は大きく動揺し、政府の民衆管理システムは変更を余儀なくされている。民衆を国营企業・人民公社・政府機関などの「単位」に組織して、共産党支部を置いて管理する仕組みが解体し、民衆は単位から解放されて、市場を流動する存在へとその性格を変えていった。また、民衆の離転職と流動が激化するにつれ、民衆を居所で捕捉しつつ、行政サービスを提供する街道居民委員会が機能不全に陥る一方で、社会秩序の維持と民衆生活の安定が政策的な急務となった。この行政区画が「社区」である。この過程で、民衆管理システムは、強権的管理から思想・道德教育と職業教育サービスによる民衆生活の安定、さらに民衆の社区運営への参加動員へと性格を変えることになる。この民衆管理システムの基本が「社区教育」である。

本論文は、社区教育政策の展開を丹念に追うとともに、北京市西城区をフィールドに、中央政府の意向と地方政府の施策、末端行政レベルの動向との関係とズレをとらえつつ、社区教育政策の特徴を描き出している。その展開は政策的な転換の視点から、第1期：萌芽期(1985-1992)、第2期：模索期(1993-2001)、第3期：展開期(2002以降)とされる。

本論文の構成は以下の通りである。序章では、本研究の課題と基本的視点が述べられ、第1章では、「社区」と「社区教育」の上記のような概念定義がなされる。第2章では、第1期：萌芽期の社区教育政策の特徴として、従来の民衆管理方式が市場化によって崩れ、道德教育による思想統制の一方で、職業教育サービスなどの提供による民衆生活の安定・向上が図られ、それが社区教育として括られていったことがとらえられる。第3章では、第2期：模索期の社区教育政策の特徴として、市場化の急激な進展、地域間格差の拡大に伴い、行政の分権化が進み、各地方政府で民心を安定させる施策として社区教育が重視されていったこと、民政(内務)部と教育部の間でヘゲモニー争いがあったことが指摘される。第4章では、とくに生活の向上・高齢化などが価値観の多元化をもたらし、行政サービスの提供だけでは社区を安定させることは困難となった時期、つまり第3期：展開期の社区教育政策の特徴として動員と参加が示される。第5章では、以上を総括して、中国における社区教育政策の特色として、上意下達の行政ルートを通した施策でありながら、地方や現場で組み換えられ、それが上級政府の施策へと反映され、改めて各地に下ろされるという循環を形成していることが指摘され、また住民が動員されることで社区を自治的に経営する動きの萌芽が見られ、そこに住民の自覚的参加の可能性がとらえられる。終章では、中央-地方のダイナミズムへの着目の必要など残された課題が記される。

本論文は、膨大な行政資料を読み込み、さらに実地のフィールド調査を通して、社区教育政策の動向とその特徴を鮮やかに描き出すとともに、中国社会の構造的な変化をも描いており、独創的で学術的価値の高い、好論文であるといえる。よって、本論文は博士(教育学)の学位を授与するにふさわしい水準にあるものと判断された。